

多文化共生
を考える

▶神岡町特別養護老人ホームたんぼぼ苑で働くEPA介護福祉士候補者（撮影時のみマスクを外して撮影しました）



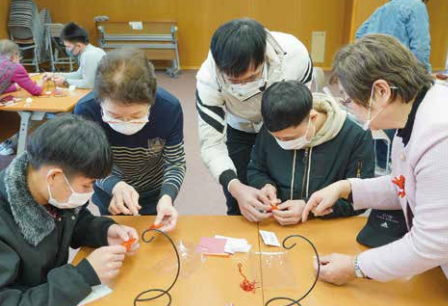
さまざまな国籍の人たちとともに暮らすまち

外国籍の人にやさしくできるまちは、誰もがあんきに暮らせます

飛騨市では、近年、仕事で来日したり日本人と結婚された人など、市内に住んでいる外国籍の人は増加傾向にあります。また、外国人技能実習生として市内の企業で技術を学んだりする人たちの活躍により、市内企業の経済活動が支えられています。

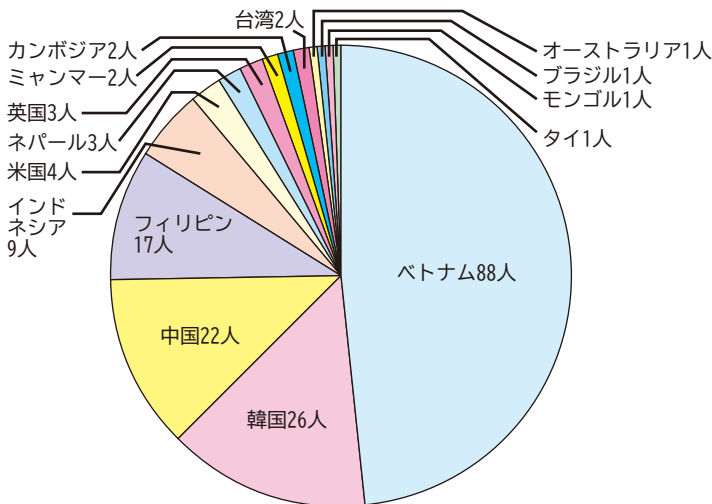
ただ、日本の文化や習慣を十分に知らず、ちょっとしたすれ違いから、地元の人とうまくいかない場合もあります。しかし、市内に住んでみえる方は皆さん「市民」。互いに安心して暮らしたいという気持ちは、誰もが持っています。

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め合い、対等な関係を築きながら共に生きていくことを「多文化共生」といいます。私たちが海外から来た人とふれあい、一緒に住みよい町づくりをしてみませんか。

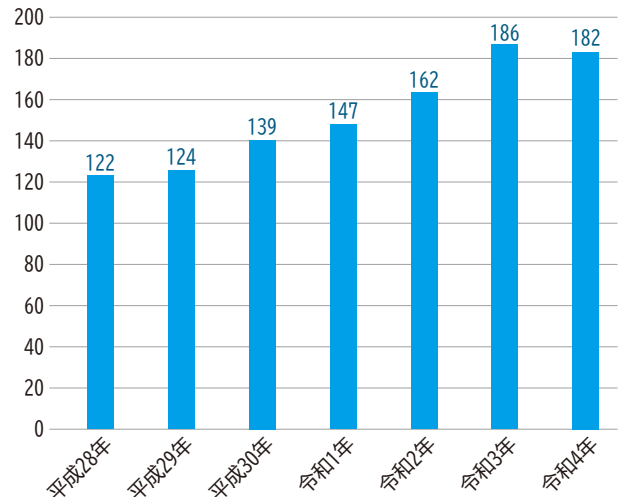


▲外国人技能実習生とつるしかざり研究会のみなさん

■飛騨市内の国籍別外国人の人数（令和4年6月1日付）



■外国籍市民人数推移（人）（毎年6月1日付）



チン・ホンタムさん

(ベトナム)

外国人技能実習生として4年半ほど前に日本へ。今は、自動車のエンジンを制御する基盤を入れるケースを作る作業などを学んでいます。

「日本人と一緒に仕事ができることが楽しいし、たくさん勉強できて自分の仕事ができるようになった」と胸を張るホンタムさん。入社半年で受けた基礎級ダイカスト技能検定にも日本語で挑み、合格されました。

日本を選んだのは「日本文化が好きで学んでみたかったし、仕事を勉強したかった」のが理由。市の印象は「歴史がいろいろあって景色もきれいだし、人が優しい」とのこと。「困ったことは？」の問いには「特に無かった」と笑顔で答えました。

お寺が好きで市へ来たばかりのころ、渡邊さんに三寺まわりへ連れて行ってもらい、人がたくさんいて楽しかったそうです。休日は、交流会で知り合った人や他の会社の人と買い物へ行ったり、料理を作ったりして過ごします。ベトナム料理で好きなのはフォーやベトナムのラーメン。料理が好きで、魚は自分でさばき、弁当も毎日作って出社するそうです。

近所の人とは毎日「天気いいですね」「今日は休みですか」と話ができ楽しいそうです。雪かきもして交流ができました。「日本語をもっと勉強したいので、皆さんからたくさん教えてほしい。古川祭に出たかったけれど、コロナの影響で出られなかったのが心残り」。祭り提灯を持っていないので、自分で作って飾ったそうです。

「年末にベトナムへ帰るので、ベトナムにある日本企業で働きたいです」と夢を語っていました。

飛騨市の
大事な
市民です

外国人技能実習生の方と、受入をしている事業者の方にお話を伺いました



渡邊正憲さん

(株式会社飛騨ダイカスト代表取締役)

平成30年に外国人技能実習生の受け入れを始め、今年で5年目。「勤勉でバイタリティーがあると聞いていたので、他の日本人への刺激になってくれたらと考えました」。言葉が通じない事も「逆にいろんな人に向けた人材育成のノウハウをつくれるのでは」と前向きに考えています。

「実際に受け入れてみると、賢いし、真面目で手際もよい。とても優秀」とべた褒め。

最初は住居の確保で、貸してくれるところがなくて苦労も。文化の違いからトラブルが生じないように、知人に頼んで様子をつかがうなど陰ながら気もつかわれたそうです。渡邊社長をはじめ社員の皆さんが指導員などの資格を取得して暮らしをサポート。その中で、他の人と平

等に接することが大事なことだと学んだそうです。

「コロナで地元の人と交流できず、引きこもりがちになったのが残念。祭りに出してあげたかった」と渡邊さん。「地域の人と話ができれば、日本語も上達するし、彼らも見守ってもらっていると分かってうれしいはずなんです」。

人材不足は深刻で、確保が難しい現状があるため、今後も外国籍の人は増えてくると考えています。「会社としては、受け入れのメリットが大きかったので、今後も受け入れを継続していきたい」とのこと。「彼らはまじめで、生活を変えようという意識が強い。言葉の問題はありますが、意思疎通の難しさは日本人でも同じことだと思う。日本人同士でも、世代間でのコミュニケーションは難しい。これからは意識を変えないといけない」と思いを語っていました。

市では外国籍市民と受入する事業者を応援しています

市では、企業活動による多文化共生の推進のため、市内事業者による外国人技能実習制度の活用促進と実習生の生活支援に取り組んでいます。

◎外国人材の生活支援

就職奨励金や日本語教室の開催
相談員の派遣

◎外国人材を活用する事業所の支援

通訳派遣
空き家の社宅利用の促進支援



社会福祉法人神東会 介護現場でも活躍！



日本人
からも
声かけを



岩塚久美子さん

(岐阜県多文化共生推進員)

岩塚さんは30年にわたって教員をされた後、日本語教師の資格を取得され、日本在住の外国人に日本語を指導。また、ベトナムや中国など海外でも日本語教師として活躍されました。

2019年に帰国されてからは岐阜県多文化共生推進員に就任され、在住外国人の支援や、そうした活動を行う人々のサポートを担っています。

2020年からは外国人技能実習生の研修施設で日本語や生活習慣を指導されています。現在はベトナム、インドネシア、モンゴル、中国の4か国の実習生を

指導されています。

ここでは常時15人ほどの実習生が約1カ月間学んでおり、これまでに85人に携わりました。

特に積極的に指導するのはあいさつとルール。授業でも、笑顔と大きく元気な声を出すことを常に気にかけています。

「文化が違うと時には騒いで目立ってしまう場合もあります。日本には細かなルールがあることやそうしたルールを守るよう厳しく教えます」。

机に両手のひじを付いて座っていたので注意したら、その人の国ではそれが良い姿勢なのだと分かった事があったそうです。「日本人の良い姿勢と外国人の良い姿勢は文化によって違う。『でも、こ

こは日本なので、日本の良い姿勢や仕事の仕方を勉強してくださいね』と伝えていきます」。

アジア系の外国人というだけで警戒の目で見られることも実際にあるそうです。外国人を身近に感じるためにも「外国人が学校訪問をしたり、多文化共生の授業をするなどして異文化を体でふれてほしい」と提案されています。

「市民の皆さんには、外国人に出会ったとき、こちらから多文化を知ろうと接してほしいです。日本人からもあいさつ、声かけをしていただければ、彼らはそれだけでうれしいんです。最終的には『心』でつながる事が大切だと思います」と強調されました。

外国籍市民と交流できる場所ができました

実習生同士の交流だけでなく、実習生と地域の方の交流を目的とした料理教室や交流会にも利用できます。利用の詳細や申し込みは商工課までお問い合わせください。

◎飛騨市外国人材コミュニティセンター

飛騨市古川町杉崎179番地6 (北日本国際事業協同組合 飛騨講習センター内)

